日本海岸に冬季に到来する雷雲では強電場で電子が加速され制動放射ガンマ線が地上に届く。加速現象の存在はこれまでの放射線観測で確立してきたが、ほぼ単地点の測定であったため、放射域の真の大きさや継続時間、加速の始まりと終わりは捉えられていない。そこで我々は検出器の小型化、省電力化、低価格化を進め、石川県の高校や大学、博物館の屋上の多地点に設置することで、多地点マッピング観測を開始した。今年度は合計7箇所への設置を行っている。